

令和元年度 学力向上プラン

深谷市立藤沢中学校

R
分析

全国学力・学習状況調査より

- ・国語では、条件に従って書く問題の無答が見受けられる。情報を整理し読み取る力、根拠を明確にして文章を書く力に課題がある。
- ・数学では、関数領域に課題がある。また、証明の知識・技能や図形の基本的な性質の理解はできているものの、その性質を利用して説明することに課題がある。

埼玉県学力・学習状況調査より

- ・国語では、言語に関する知識・理解・技能の正答率が県平均より低い。授業や朝学習で漢字や語彙テストを行う。また、振り返りシート等を活用し書く力を高める取組を引き続き行っていく。
- ・数学では、記述式解答の正答率が低い。図形、一次関数の内容が未定着の生徒が多い。少人数グループでの自分の考えを伝える活動を増やし、また、基礎・基本的な知識を活用する問題を授業で取り入れる。

NRT・NINOより

- ・全国平均をやや下回り、上位層は女子、下位層は男子が多い。
- ・オーバーアチーバー13%、アンダーアチーバー12%。
- ・ルールに基づいて考える力が全国平均を上回る。記憶力には課題がある。

【令和4年度までの目標】

- 全国学力・学習状況調査の平均正答率において、すべて県平均を上回る。
- 県学力・学習状況調査の平均正答率において、すべて県平均を上回る。
- NRT・NINOで偏差値50を上回り、アンダーアチーバーをゼロにする。

【来年度に向けての数値目標】

国語	伸びた児童の割合			県平均との差			学力レベル		
	H30	H31	R2	H30	H31	R2	H30	H31	R2
1年				-1.9	-5.2	-2	7A	7B	7A
2年	44.0	56.8	70	-4.2	-1.1	0	8C	8B	8B
3年	54.0	63.9	70	-8.4	-2.8	0	8C	8A	8A
算数 数学	伸びた児童の割合			県平均との差			学力レベル		
	H30	H31	R2	H30	H31	R2	H30	H31	R2
1年				-1.6	-2.8	0	7B	7C	7B
2年	49.0	62.5	70	-7.2	-3.1	0	7C	7A	8C
3年	47.1	73.2	75	-11.4	-9.5	-2	7A	7A	8B

参考 第2期深谷市教育振興基本計画より

指標名		現状値 [H31(2019)年度]	目標値 [R4(2022)年度]
全国学力学習状況調査の正答率において、県平均を上回った学校の割合	小学校	50.0%	58.0%
	中学校	55.0%	55.0%

G
ゴール

【次年度に向けての重点計画】

- ・ 下位層を減らすために、授業で基礎基本を活用する問題を取り入れる。朝学習や各種学習会で基礎基本の徹底を進める。復習シート、iプリ等を活用する。
- ・ 上位層を増やすために、上位層向けの課題を用意するなど個に応じた指導場面を工夫する。課題の解説等、ミニティーチャーを活用する。
- ・ 相互授業参観(小中連携を含む)を行い、指導力を高める。
- ・ 「五つの基」等の実践により自分と仲間の良さに気づかせ、自己有用感(自尊感情)を高める。

8月

校内研修 (本校の課題の共通理解・全教職員で全学調問題確認)

9月

校内研修 (全学調・県学調の結果の分析と対策 生活アンケート結果の分析と対策 学び合いのある授業の研修)

教科部会

各教科の取り組みの推進

(「自分の考えや想い」を語り合う 場面の創出)

(授業の流れがわかる学習カードの活用)

10月

校内相互授業参観(他教科の学力向上の取り組みを参観)

小中合同研修会

11月

学力向上研修 (他の中学校のグッドプラクティスを検証)
(校内のグッドプラクティスの再検証)

校内研修で報告・共通理解

12月

校内研修 (HQCシート等から生徒理解を深める 研究のまとめに向けて)

1月

小中合同研修会

2月

学力向上旬間

校内研修 (成果と課題の確認)

3月

全学調の過去問を解く (2年生)
コバトン問題集・復習シートを解く

朝学習の実施

基本問題の反復

コバトン問題集・復習シート・iプリ等を引用

ステップアップレッスン等学習会

五つの基の実践 学習規律の確立・徹底

家庭と連携した家庭学習 プリントの整備